

第9回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

1 日時・会場

平成27年12月15日（火） 15:00～16:30
厚別区役所2階 会議室C

2 出席者（敬称略）

白川 典洋（小学校長会厚別支部）
波多野 達郎（厚別区PTA連合会）
中山 勝喜（厚別区中学校長会）
田中 昭夫（公益社団法人札幌市子ども会育成連合会）
松山 瑞穂（厚別中央地区 まちづくり会議）
藤島 敬久（厚別南まちづくり会議）
坂本 積（青葉地区まちづくり会議）
押田 純（厚別西地区まちづくり会議）
新谷 拓朗（厚別区民生委員児童委員協議会）
原田 剛（厚別警察署生活安全課）
齊藤 孝幸（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
大川 和則（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
大原 治 厚別区市民部長
藏田 忠朗 厚別区市民部総務企画課長
嶋田 愛一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

3 会議内容

【1】厚別区の犯罪発生状況について

- 今年1年の状況について説明する。刑法犯の認知件数は全道的に減っており、厚別警察署管内では11月末現在で1,050件、昨年は1,480件。前年比認知件数減が全道で3番目となっている。これはみなさんの活動が結果に表れたものだと考えており、大変感謝している。

実際に厚別区内でこういった犯罪が多いかと言うと、自転車盗難である。北広島市ではあまり無く、発生場所は厚別区役所周辺の市の駐輪場であり、主に地下鉄8番出入口が多い。実際には鍵を3つ掛けても盗まれている事例もあり、夏頃から1台10数万円するロードバイクが鍵を切られて盗まれる事例も増えている。来年もこの種の盗難が

増加するのではと思っている。

次に多いのは女性と子どもへの声掛け事案。厚別署管内では声掛けと痴漢（強制猥褻に至らない肩を叩いたりお尻を触ったり盗撮するなどの北海道迷惑行為防止条例違反）が150件発生している。中には単に道を聞くために声をかけて通報に至る場合もあるが、発生場所は新さっぽろ近辺が多く、時間帯もまちまちだが20時から午前1時までの間が多い。主にOLが地下鉄やJRを降りて一人で帰宅途中に被害に遭う。若干強制猥褻的な事案と痴漢をしている常習犯が二人ほどおり、現在捜査中であるがまだ逮捕に至っていない。ただ、これを逮捕しても次から次と新しい事件が発生するので、いたちごっこではあるが1日でも早く被疑者を検挙したい。

それと強制猥褻事件が厚別署管内では今年8件発生しており、ひばりが丘交番、信濃交番、新さっぽろ交番、もみじ台交番、上野幌交番、全ての交番管内で発生している。

公然猥褻は今年に入って19件発生しており、3人検挙している。去年から比べると今のところ7件減っているが、最近は増加傾向にある。捕まっていない事案でも、ある程度犯人と特定される人物はいるが証拠が無く立件できない。

盗撮も減っており、今年逮捕したのは3名。ただ、大谷地とバスターミナル近辺でまた発生しており、まだ捕まっていない。犯人の年齢もバラバラであり、前回逮捕したのは退職した60歳代の男性で、その前は20歳過ぎの男性。近隣には注意喚起しているところである。

このままみなさんの活動が効果として表れれば来年更に件数は減らせるかと思う。

【2】重大事案発生時における土日等の緊急連絡体制について

- 先般、豊平警察署管内で女子中学生が車に監禁されそうになる事案があり、この日がたまたま土曜日だったのでどこにも連絡がつかないということで、この事案発生を周知することが出来なかった。警察署としてはこれまで緊急連絡体制が確立されておらず、報道もされていたが一部出ていない局もあったので、急遽この緊急連絡体制を作ろうという話になり、事案を基に次の日、各警察署で各学校と各区役所と住民に連絡するよう道警本部から申し入れがあった。今後は、厚別警察署は厚別区と北広島市と協力して体制を確立したいと考えている。

それです、日中の時間帯については札幌市の教育委員会に連絡すれば、各学校に連絡してもらえることになっているが、17時30分以降や土日祝日になると連絡がつかない。そこで、休みになったら小中学校の校長会に連絡して、そこから各小中学校に連絡できるよう考えている。連絡の手段と方法は、まず電話してその後FAXする。さらにほくとくんメールを配信し、この3つで確実に伝達したい。あと各児童生徒についてはそれぞれ学校にお任せして周知してもらいたいと思う。いろいろ問題もあると思うが、後々みなさんとも検討したいと思う。

- 今の話を伺っていると、土日等に生徒やお子さんのいる家庭に情報を出すのは難しいと思う。なぜなら土日は学校の先生もほとんどおらず、この連絡体制の中でも児童館が抜けている。2~3か月前くらいに児童館に対する脅迫の書き込みがあり、福祉法人の本社から各児童会館に鍵を掛けるよう連絡があった。なので、17時30分以降も児童

館には子どもがいっぱいいるため、そういうところがカバーできるので児童館も連絡体制の中に入れていただきたい。

それと土日は体育振興会が体育館を利用して各種スポーツを行い、そこに児童がたくさん居ることが多い。児童に対する周知であれば体育振興会を通して行うのがよいと思う。

また、ほくとくんメールはだいたい1日~2日遅れで届き、すぐ対応しなければならない件に関しては平日であればまちづくりセンターや学校からすぐ連絡がくる。17時30分以降や土日にはすぐ連絡が来ないので、実際に動いている人に連絡がいく方法を検討していただけたらと思う。

- 今、小学校同士は、休み中でも携帯電話のメールを使って連絡をとれるようにしている。土日に実際に連絡が入ったときどう対応するかは各学校の判断になる。児童会館は子ども未来局の管轄になり、ミニ児童会館が学校に併設されているところはすぐに連絡できる。ただ、ミニ児童館は土曜日もやっているが学校はやっていない。

また、上野幌小学校の事例としては、土日等に体育館を使用する場合は少年団が登録して体育振興会を通すので、体育振興会の担当の人というのは少年団の担当でもある。なので、やはり体育振興会に直接連絡がとれれば対応できるのかと思う。

- 中学校は教員又は特別外部指導者がいて部活動が行われている。部活動以外でも教員の指導者が学校にくるので、学校に連絡がつながれば大丈夫。ただ、外に出かけているときにどうするか、指導者に連絡がつくかどうか。例えば厚別競技場に行くことも多く、そこから帰るとき危ないから気を付けなければならない場合にどうすればいいのかと考えていた。中学校は基本的にテスト期間などの部活動が無いときにも日直代りが待機しているので、この前の清田区での監禁事件のときも指導主事から私たちの携帯電話に連絡が入り、それで学校に問い合わせして今活動している部があるかどうか確認した。家庭への周知は本校の場合もPTAメールで行っているが、今は8割くらいしか登録されていない。ただ仲間同士でつながるという部分は中学生の場合は伝達が早いので、子ども側についてはそれほど大きな不安はないかと思っている。

- 警察署から校長会に連絡が入って校長会の担当者から各学校の教頭先生などに連絡が入る場合、各学校の先生は土日などで学校に居なくても、学校から各家庭に緊急配信メールはできるのか？

- 学校に居ないとできない。その場合は情報が先生のところで止まってしまうので、緊急の場合は当然学校に行って対応する。

- 学校の場合は町内会との連携が不可欠である。私のところにも不審者が出た場合はファックスが入るが、現実的に土日であると学校は機能しづらいと思う。今町内会もパトロール等で協力体制ができてきているため、町内会を無視すると対応が難しい。

- 実際私もPTAと自治会長と町内会連合会にも属しているのでかなり情報は来る方だと思うが、今日集団下校したという情報が後から入ることもあるので、土日に関してはほぼ連絡が途絶えるのではないかと心配している。なので、児童館や体育振興会への連絡が必要だと思った。

- 土日に平日と同じような体制がとれるかどうかは考えていかなければならない。
- そういう体制がとれないという前提で考えてはダメだと思う。無理にできないことをやるという話になってしまうので、むしろ土日は学校が限界だからどうしようかということでも議論した方がいいと思う。
- この件は今すぐ結論を出すのが難しいので、今後も検討ということになるのかと思う。区役所を中心に小中学校でも考えていきたいし、それぞれ町内会の方でも検討していただけるとありがたい。調整次第またみなさんにご報告したい。

【3】各構成団体からの報告と意見交換

- 厚別区管内で日頃街頭啓発を行っているが、いろいろな会社の協力を得ており、今年は郵便局に協力していただき、お盆の時期にはがきを郵送するという運動を行った。高齢者が特殊詐欺被害に遭うことが多いので、防止を兼ねていろいろな企業が郵便局に協賛を集めて郵便局で把握している65歳以上のお宅に郵送した。これについては北広島市でも行い、今度は正月の年賀状で郵送する。他に特段目立った活動は無いが、春と秋に地域安全運動があるので、その時に地域住民の方に「防犯はみなさんの力でできる」ということをアピールしている。来春以降も地域安全運動を進めていきたいと思っている。
- 当地区では青パト隊とそれぞれの町内会で防犯担当を置いているが、先ほどから議論になっている土日の対応についてどこから連絡がくるのかということが問題となっている。青パトについても、例えば自分が買い物に行くときにも回転灯を付けていくなど、気楽に防犯を意識しないでやっている。また、私の方に何か連絡が入った場合は、当地区の防犯担当者全員にファックスや電話をしている。土日に町内会に連絡をした事例は過去に1回だけあった。
- 当地区は町内会が多く、パトロールは定期的に行っているが土日の連絡はやはり難しいと思うが、今のところ大きな問題は起きていない。
- 西地区も防犯についてはそれぞれの町内会で対応してもらっている。やはり青パトを中心とした防犯活動を行っているが、防犯と交通は何をやる時も大変。防犯の業務があるときは交通の担当にも来てもらい、逆もそうである。とにかく人数の寄せ集めをしており、例えば除排雪のときにも積極的に全員出てきてもらって意識を高めている。緊急時については、西地区、北地区、東地区あたりで発生した事案は青パトを出したりしている。
- 当地区では防犯・防災の委員会を作って活動するようにと、平成23年に自治連から各町内会に文書を出したが、当町内会でもあまり具体的な活動は行っておらず、他の町内会も同様であった。しかし、当町内会では先月に第1回目の防犯・防災委員会を立ち上げ、防災の時の支援者を30数人任命し、非常時に電話で連絡して災害対応を手伝ってもらうようにしている。他の町内会はこれから進めていくのかと思う。
- 民生委員というのは赤ちゃんから高齢者まで幅広い見守り活動や支援を行っている。その中で子どもを担当する部署があり、地域で子ども達を虐待からいかに守るかという項目を札幌市の民児協で決めて、それを全市に通知し、それぞれの地区にあった活動をする事になっている。東地区では、全国から下りてくる指導に基づき子どもの虐待をいかに発見するかという活動をしている。統計を見ると、家庭内虐待の数字が全国では

3位であるが、札幌市ではおそらく1位である。外での虐待は見えるが、家庭内は見えない。日常活動で高齢者の見守りをどこの地区でも行っているが、その時に各民生委員がもう一つアンテナを張って、大きな泣き声が聞こえろとか、こんな時間に学校に行かないで公園にいるのはおかしいとか、そういうものを見かけたら即児童相談所に連絡すると決めている。学校に連絡する場合もあるが、どういう状況なのか確認できないので、即児童相談所に連絡する。私も4～5年前の夜11時頃に近くの人から虐待の電話があり、4～5歳の子どもが外に出されて家に入れられないという内容だった。すぐ児童相談所に連絡したら30分くらいで職員が到着し、子どもを児童相談所に連れて行ったという事例もある。民生委員はこういうことを中心に活動している。

また、子どもに関わることは主任児童員が中心であるが、児童虐待については我々民生委員も年度当初に各学校へ訪問し、何かあればお互いに連絡体制をとろうという話はあるが、何かあったらどういう形でどう連絡するかということは進んでいない。こういう会議で一步踏み出してもらえればいいかなと感じている。

先ほど子ども会の田中さんが初めて「地域」ということを話したが、これまでの話を聞いていると、学校とPTAだけの関わりしか聞かえない。そうではないよということが踏み出しである。やはり土日の対応は地域。地域では日中に青パトや防犯の見回りをしている。是非地域に何らかの形で連絡をする体制をこの会議できちっと決めて一步踏み出さないと無理なのかなと。遠慮ばかりしていると事件が起きてしまう。

それから私はほくとくんメールの登録をしているが、これも情報源の一つなので、これをコピーするなど何らかの形で町内に連絡するというのをこの会議で考えて、そうすると何でも地域、地域と言ったら地域が困ると言うが、結局地域住民が中心となって社会が出来上がっているの、やはり地域にお願いをする。

- 中学校長会のメンバーの分担で私は生徒指導ということで、子ども達の生活の面に関わることと、イジメや自殺防止に関わることを担当している。年間5～6回各区で校長先生が集まって各学校の様子を話し合っており、また、年間10回全区の校長先生が集まって各学校で起こった事例や防犯についての情報交換している。区ごとでも更に一步踏み込んで、細かい内容で困っていることとか、隣の学校と付き合いのある生徒の様子を聞くとか、校区が重なっているところの商店街の様子など、校長先生の間や教護協会でも情報交換している。

事件事故の防止以外にも、各中学校で交通安全教室や防犯教室を行い、最近では消防署に来てもらい災害時の対応の指導を受けるなど、自ら積極的に危機管理に意識を持って取り組むことをしている。

町内との関係については具体的な形での実現は中々進まないが、中学生も町内の役に立てるのではないかと考えている。何かあったら中学生も十分戦力になる、特に防災の観点では貴重な働き手になるということを学校で話しているが、町内の方と一緒に話をするのが難しく、実現している例は少ない。札幌市内の中学校でも何とか具体的な動きができるように話している。

- 子ども会で区の事業をする時、「家に帰るまで事業」ということを約束事として子ども達に言っている。

今、子ども会では「子ども会地区連絡会（地区子連）」というものを作ってもらいたいと各区にお願いしており、現在結成されているのは中央区、西区、東区、南区の一部だけ。各まちづくり会議の中で子ども会という組織を入れて頂ければ、そのことが

各地域の連絡会をつくるきっかけになると思うので、是非みなさんをお願いしたい。

○ 2点ほど活動報告いたしたい。

一つ目は地域安全マップ作りについて、区内では共栄小学校のみが継続して取り組んでおり、今年度からはPTA以外にも地域の方々も一緒に参加していただき、児童と共に危険な場所を歩いて確認した。児童と地域の方がお互い顔の見える関係づくりに役立ったのかと思う。今年は上野幌小学校でも独自に地域安全マップ作りを行ったと聞いたが、他にも独自で実施している学校があるのかなど、今年度中に各学校にアンケート調査をさせていただき、この会議の中で説明したいと考えている。

2点目は大谷地わらび階段への防犯カメラの設置について。地下鉄大谷地駅から北野地区まで抜けていく途中に階段があり、法的には道路となっている。照明は付いているが、以前から変質者が出没しており、地域住民によるパトロールも活発に行われ、区役所も防犯ミラーを設置した。しかし、中々変質者が減らないので、地域から防犯カメラの設置が求められていた。ただ札幌市としては公道に防犯カメラを設置した前例がほとんど無く、そういう中で地域の方々の粘り強い活動と、北海道コカ・コーラボトリング株式会社のご協力をいただき、今年の8月19日に設置した。その後、変質者が出没したという話は聞いていないので、防犯カメラの設置が一定の効果として出ていると思う。

○ 防犯カメラの設置については区役所に相談されてから1年くらいかかった。当社のような飲料会社に何ができるのかと思ったが、当社の方向性としては地域に根差した活動、地域貢献ということにスタンスを置いている。その中で大谷地団地町内会が過去からの問題や課題があった中で、犯罪が減らず何とかしたいという思いが地域住民から上上がり、それに当社が協力をさせてほしいということになった。上からトップダウンで下りてくるのではなく、下からの地域住民の声が大事であると思う。防犯カメラの維持管理費は当然かかるが、できるだけ費用がかからない組み立てにしている。

今年の2月に厚別区とパートナー協定を締結させていただいて、防犯に限らず美化運動や高齢者への手伝いなど、いろいろな声をいただきながら当社として何ができるか模索して、是非協力できればと考えている。

○ 学校の校区の見直しの話が出た時、保護者が一番心配するのは地域の見守りや、登下校時の安全が担保されるのかということ。現状は町内会に本来一つずつあったはずの子ども会が無い状態。私の自治会でもずっと昔に無くなった。子どもはいるが実際は無い。そういうことが周りに増えてきて、単位町内会で子ども会が維持できる状態ではないと考えており、こういった校区の見直しの際に連合町内会で子どもを見守れる活動をしていけるような再編が必要だとずっと訴えてきた。なので、防犯活動や見守り活動が高齢化によりなり手がいないという状況でも、20~30年前のイメージで単位町内会で行うのではなく、PTAも同様に地域と広域な連携をして学校を見守るという方向性で、様々なところからそういう声が出てほしいと思う。子ども会然り防犯活動然り、PTAが先生に任せきりような保護者と学校だけの関係ではなく、保護者と学校と地域の関係を今後盛んに叫ばれて網目のような防犯意識が出来れば、情報が学校で止まってしまうということが無くなる。今、学校と保護者との関係はメールでかろうじて繋がっている状況であるが、例えば警察署から区役所や校長会に連絡がいくのであれば、同様に町内会連合会に同列に緊急連絡がいくような体制をとれば、町内会連合会から各町内会に伝

わるという網目の組織づくりが理想で、本当はそれを先に進めていきたい。しかし、先ほど新谷さんがおっしゃったように地域に連絡がいくようにすべきだということはそのとおりだと思うが、ただ実際のところ保護者に聞くと、町内会は何もしない、町内会は何をしているのかわからないというのが現状。町内会が一生懸命学校側に関わりたいたいと思っても、保護者からすると町内会は何をやっているのかわからないので私は関係ないということになって、分裂している。なので、少しずつでもいいが実効性のあることを一つ一つ進めていく。例えば、学校から各家庭に配布する緊急連絡メールがあるのであれば、防犯を担当している地区の方々と区役所との間で同じように緊急連絡メールができる体制を整えてもいいのではないかと。メールはそんなにお金がかかるものではないので、任意団体にメールを配信するシステムがあれば、学校だけでのやりとりではなく、警察から全防犯関係者にメールするなど、実効性のあるものをこの会議でやろうとなれば、地域からもちっと動いているのだなと見てもらえる。怖いのは形骸化、沈滞化していくこと。大谷地団地町内会も1年以上かけて話し合いをして防犯カメラを設置したが、これも町内会と行政、民間が連携した本当に素晴らしい成果物だと思う。こういう実績を残すことによって、町内会は何をやっているのかわからないとは言わせない、という方式をとっていききたいと切に願う。

- 先ほど区役所から話があった地域安全マップについて、私も平成24年くらいから参加しているが、子どもの目線と大人の目線は全然違う。数年前に小学校長会で厚別地区のPTAと一緒に地域安全マップを各学校で取り組めないかと聞いたところ、時間割などの関係でそれは無理だと回答された。小学校でそういう事業を行うのであれば、地域の大人を参加させるのは我々の仕事なのだが、学校から事業実施の連絡をしてもらわないといけない。
- 上野幌小学校では地域安全マップは総合学習ということで実施しており、それぞれの学校でカリキュラムに盛り込まれていけばできると思う。上野幌小学校の場合は、地域安全マップに取り組む該当学年の担任の考えによるので、PTAに協力を依頼する場合とそうでない場合がある。防犯や認知症の方々への対応の講座など、児童に取り組んでもらいたいことの申し入れがいっぱいある中で、新たなものを入れるとなると難しい部分がある。私からも次の校長会で各小学校に確認しておきたいと思う。
- 児童虐待防止の全国共通電話番号が平成27年7月1日から“いち早く”ということで189に変わり、市や地域の広報誌にも出ていたと思うが、そういうことを地域住民にPTAを通してお知らせすることはいいのかと思う。
- 地域安全マップを実施する場合、学校と町内会がつながるためには、町内会の防犯担当者から一緒に実施するよう学校に働きかけたり、逆に学校やPTAから町内会に働きかけることが理想の形かと思う。
- そこが今地域と学校の課題である。やはり町内会が何をやっているのかわからないというのは現実的な話で、これはお互いにもう一つ殻を破っていかないといけない。区民協議会の検討委員会でもその話をしている。
- 当地区では防災・福祉支え合い運動でマップ作りを行っているが、その中で子ども

の安全マップも入れていこうとしている。

- 前回出た小学校ごとの帰宅時間が違う件について校長会で話をした。そうしたら、ある学校はその話をうけて帰宅時間を6時から5時30分に変更した。市教育委員会では帰宅時間の約束が無く、市の校長会では夏場5時という約束があった。しかし夏場の5時はまだ明るいので、厚別区では5時30分がいいのかと思っている。なので、見守りしていただいている方には5時30分を目安にいただければと思う。

それと冬場の帰宅時間は4時30分の学校が多いが、4時30分だともう真っ暗なので、時間に限らず暗くなる前に帰るようにという指導をしている。

【4】平成27年度厚別区防犯講演会の開催結果について

事務局

資料3のとおり説明

- 防犯講演会についての提案であるが、この防犯講演会を今後は小学校の活動の中に位置づけることができないかと考えている。年に2～3校で実施できればいいかと思う。
- 新規で事業を行う場合はある程度動員をかけないと参加者が集まらないと思うので、もともとPTAや学校関係者が集まりやすい環境であればいいと思う。
- 当校では来年度の計画を組み始めており、6～7月に実施できればと考えている。
- 来年度6～7月に実施するのであれば、広報などの事務スケジュールを考えるとこの場で防犯ネットワークとして意思統一して大まかな方向性を固める必要がある。
- 中学校の場合は1学年ごとの人数も多いので、講演会のために中学生を別な場所に連れて行くのは難しい。実施するのであれば中学校に来てもらう方がいい。
- 小学校で実施する場合、自分の子どもと一緒に防犯講演会を行うのであれば、PTAも参加しやすい。地域連携の防犯活動にもなる。小学校を実施場所として保護者や地域の方も参加できる事業に方向性を変えるのであれば賛成である。
- 詳しくは事務局と相談しながら進めるが、大まかな方向性としては今話しが出た内容にしたいと思う。

【5】来年度の事業計画について

事務局

資料4のとおり説明

(文責：厚別区総務企画課地域安全担当係)